別紙様式1　　令和8年度　幸崎小学校　学校評価表　　（　中間・最終　）　　三原市立幸崎小学校　　校番（　15　）

| a 学校教育目標 | 「自ら伸びる　ともに伸びる　子どもの育成」 | b 経営理念<br>ミッション・ビジョン | 【ミッション】（自校の使命）　自分を愛し、夢を語る児童の育成<br>【ビジョン】（自校の将来像）　小中一貫教育で、15の春に【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもを育成する学校。そして、保護者・地域に信頼される学校。 |
|---|---|---|---|

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | 改善方策 | 学校関係者評価 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 | g目標値 | 10月<br>h達成値 | 2月<br>h達成値 | i達成度 | j評価 | k結果と課題の分析 | n改善方策 | l 評価<br>イ | ロ | ハ | mコメント |
| 確かな学力 | ○学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童の育成<br>【標準学力調査偏差値平均55以上】 | 教務・研究部<br>◎学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ力を育む授業改善による、学力の向上<br>【学期末テスト学年平均85点以上】<br>【児童アンケート】 | 【授業改善】<br>①単元の始めに、児童と共に単元計画表を作成<br>②子どもたちの自律的な学びを支える学習環境の設定<br>③自分の学びを振り返るためのR80の充実<br>④STB(幸崎トレジャーBOX→働かせたい見方・考え方)を掲示 | 単元末テスト | 平均得点率<br>85%以上 | 100% | | 100% | A | 1学期単元末テストの結果　算数科到達率86.4%<br>「学習集団アンケート（9月）」5項目中、肯定的評価80%以上100%<br><成果><br>全学級での単元計画表の作成継続<br>学習環境（自己選択や自分で活動する時間の確保等）の設定により、学ぶ楽しさを実感する児童の増加<br>職員間でのR80のノート交流、掲示による児童へのフィードバック<br>獲得させたい見方・考え方を明確にしたSTBの活用（考え方を全クラス統一）<br><課題><br>全学級での①～④の継続実施 | 【授業改善】<br>○①～④の取組を全学級で継続・進化<br>○効率的・効果的な校内研修の実施 | ○ | | | 単元計画表は、「今日やること」が分かりやすい。<br>R80は、自らを振り返る上で非常に重要な取組だと思う。しっかり時間を取って実践してほしい。<br>自分に合った学び方ができるのは意欲をかきたてるので非常に良い取組だと思う。<br>全学年単元末テストの平均が85点以上を目指して頑張ってほしい。<br>一人一人の児童が生き生きと学んでいる様子を見て、とても喜ばしく思った。<br>学力の違いはあるが、児童それぞれに合わせてプリントや学習を進めているのは良いと思う。<br>教室内に学習のポイントなどが掲示してあり、振り返りの助けになっていて良いと思った。<br>学習して学んだことを言葉や文章にするのが苦手な傾向にあるが、どの学年もできていて素晴らしいと思った。<br>子どもたちがその時間の目標をしっかり理解していて、常に振り返る姿勢が身についている。<br>個に応じた指導・手立てがされているが見取りがもう少しほしい。<br>授業の中で学んだことの発表等にICTが十分活用されている。 |
| | | | 【個別指導の充実】<br>①授業における個別支援の充実<br>②基礎学力の定着のため補充学習の充実<br>③認知機能強化トレーニング（低学年） | 児童アンケート | 肯定的評価<br>80%以上 | 100% | | | | 標準学力調査の問題傾向を分析し、練習問題を作成・実施→児童一人一人の課題を把握<br>週に2回、朝の時間にコグトレを実施（低学年）<br><成果><br>補充学習における複数教員の配置により、個別支援の充実<br>児童一人一人の課題を明確にすることで、その子に応じた課題を実施<br><課題><br>基礎学力の定着が不十分な児童への対応 | 【個別指導の充実】<br>①授業において個人思考の時間での個別支援の充実<br>②補充学習において、個の課題を見取り、それを克服するための時間としての活用<br>③補充学習において、自分で学習を進めていく時間の充実 | ○ | | | |
| | | ○情報活用能力の向上<br>【児童アンケート】 | 【情報活用能力の向上を図る取組の充実】<br>①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定<br>②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上<br>③情報モラル教育の充実 | 児童アンケート | 肯定的評価<br>80%以上 | 100% | | 125% | A | 「児童アンケート（9月）」10項目中、肯定的評価80%以上100%<br><成果><br>県教育委員会の指導主事による情報活用能力向上のための職員研修・情報の時間のカリキュラムづくり、授業の継続実施、情報モラルの育成<br>週に2回、朝の時間にタイピング練習を実施<br><課題><br>「情報の時間」の学びと他教科とのつながり | 【ICT活用能力の向上】<br>①「情報の時間」の学びを各教科で積極的活用 | ○ | | | |
| 豊かな心 | ○認め合い、支え合える集団づくりの推進<br>【i-check　散布図Ⅰ（個人の心の安全）満足群へ】 | 生徒指導・保健部<br>○目標に向けて、仲間と共に考動・協働できる子どもを育てる。<br>【i-check　散布図Ⅰ（個人の心の安全）満足群へ】 | 【PDCAサイクルと振り返り】<br>①学級チャレンジ・・・・・・学級目標の設定と評価活動、学級チャレンジと学校チャレンジを関連付け<br>③共感的な学び合いを実践し、認め合い感謝する仲間づくり<br>④特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた指導を充実 | i-check　散布図Ⅰ（個人の心の安全）<br>児童アンケート | A・B領域の児童<br>80%以上<br>肯定的評価80%以上 | 87.9%<br>98.9% | | 109%<br>123% | A | 認め合い支え合える集団づくり<br>i-check　散布図Ⅰ（個人の心の安全）A・B領域の児童80%以上全校平均87.9%。<br>児童アンケートによる肯定的評価98.9%<br><成果><br>ポジティブ行動支援による相手を認め良さを伸ばす考えの浸透<br>学校および学級チャレンジの取組<br>毎日の挨拶運動やクリーン活動等、自治的な児童会活動<br>縦割り班で行う遠足やスポーツフェスティバル、掃除活動による支え合う集団づくり<br>児童が主体となって実施した「頑張ったね会」の取組<br><課題><br>自己肯定感が低い児童14% | 【誰ひとり取り残されない学校づくり】<br>①定期的な個人面談の実施<br>（担任、スクールカウンセラー）<br>②心理的安全性のある学級経営の推進<br>③学校チャレンジ・学級チャレンジの取組の継続・進化<br>④学校全体で頑張りを称え合う会の実施 | ○ | | | 遠足やスポフェスは、縦割り班でやられており、上級生にとってもリーダーシップを発揮する練習となって良い経験になると思う。<br>学力の高めの児童が理解していない子について説明している場面があり良かった。<br>地域資源や地域の方々の協力を上手に活用し、児童の学びの幅をしっかり広げてくれている。<br>授業においても生活においてもその目標に向けた取組が十分になされている。 |
| | | 生徒指導・保健部<br>◎縦割り班・異学年を軸とした自治的な学び<br>【児童アンケート】 | 【縦割り班・異学年活動の充実】<br>①幸崎っ子10の姿の共有化<br>②幸崎スポーツフェスティバル・幸崎文化フェスティバルの実施<br>③児童会や委員会、縦割り班等の自治活動の充実<br>（縦割り班）縦割り班遠足・清掃（児童会）がんばったね会（年2回） | | | | | | | | | ○ | | | |
| 健やかな体 | ○運動に対する意欲の向上<br>【個人記録の結果向上】 | 生徒指導・保健部<br>○楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。<br>【個人記録の結果】 | 【運動に対する児童の意欲向上】<br>①縦割り班を生かしたスポーツフェスティバルやリレーの実施<br>②外遊びWEEK等の取組<br>③視覚的に自分の目標やゴールが見えるカードの作成と評価 | 個人記録の結果 | 向上した児童の割合90%以上 | 100% | | 111% | A | 楽しみながら体を動かすことで、運動に対する意欲の向上を図る<br><成果><br>スポーツフェスティバルで楽しみながら体力の向上を図る<br>体力テストの個人目標設定カードを作成と結果をレーダーチャートにし、児童にフィードバック<br>体育ファイルで次年度へ引継ぎ、個人データをシステム化<br><課題><br>男子女子ともに、県平均値かつ全国平均値を全ての項目で上回る<br>運動習慣に関するアンケートによると、1日の運動実施時間が、1時間未満と回答する児童の割合が、男子67%、女子50% | 【体力の向上】<br>①運動保健委員会を中心に行うなわとび朝会やマラソン月間など、運動習慣の確立に向けた児童主体の取組の実施<br>②目標を明確にした体力テスト（2回目）の実施（50m走　ソフトボール投げ）<br>③外部講師の招聘（50m走）<br>④体育の授業におけるサーキット運動の実施やICT活用 | ○ | | | 休憩時間に先生も一緒に遊んでいると聞いた。素晴らしいと思う。何より体力の向上につながると思う。<br>運動場に出て、多くの子が異学年でもよく遊んでいて、仲間作りも良好。<br>スポーツテストの結果など昔の結果もファイリングして見比べることができていてよいと思った。<br>体育ファイルの継続活用を続ける中で、個々の運動内容・継続している工夫等を明確にする必要あり。 |
| 地域に信頼される学校 | ○コミュニティースクール・小中一貫による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。<br>【コミュニティースクール】 | 教務・研究部<br>○幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。<br>【児童アンケート】 | 【コミュニティスクールを活用し教育力向上】<br>①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に関わる機会の創出<br>②総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント（地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実）の推進 | 児童アンケート | 自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価<br>80%以上 | 97% | | 121% | A | コミュニティスクールを活用した教育力の向上（家庭科ミシン指導など）<br>地域資源を活用した地域学習（南山先生、水辺・海辺教室、芋の苗植え、七夕まつりなど）<br>自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート2項目中、肯定的評価97%<br><成果><br>地域と学校が一体となった教育活動の計画・実行<br>地域の方への感謝の手紙で気持ちを視覚化<br>地域の素晴らしさを体験しながら実感<br><課題><br>地域の方との交流が限定的 | 【地域人材の発掘】<br>①教育活動に取り組む上で、各学級の保護者に呼びかけを行い、協力していただけるものは、積極的に周知<br>②地域の方々が関わった実際の活動の様子を学校だよりや学年通信で配信し、どなたでも参加していただきやすいような、内容の「見える化」 | ○ | | | 今後もしっかりCSを活用してほしい。色々な地域の大人と関わることが子どもたちにとって何よりも財産になるはず。<br>残業は、ただ「○時までに帰りましょう。」では、若い先生方にとってストレスになるばかり。<br>若い先生方の意見や気持ちをしっかりと聞いてほしい。ただ、幸崎小は早く帰れるように<br>色々な取組をされているようなので、引き続き取組を進め、充実に努めてほしい。 |
| | ○チーム幸崎として、業務改善を図る。<br>【時間外勤務時間目標総時数達成率100%】 | 総務部<br>○在校時間を短縮する。<br>【時間外勤務時間目標総時数達成率100%（平均値45時間）】 | 【適材適所の人材配置による業務改善】<br>①個性を発揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化<br>②心理的安全性を醸成しチーム力の向上<br>③一人一人が生き生きと働くことができる組織へとさらに成長 | 時間外<br>勤務時間数 | 年間平均45時間以内の職員<br>100% | 100% | | 100% | A | 時間外勤務時間数が45時間以内の職員　100%<br>平均　18時間25分<br><成果><br>ICTを活用した業務の効率化（週計画の作成・チャットの活用）<br>時程の変更（下校時刻15時・学力補充の時間確保）<br>退校時刻目標の設定・ブロックでの連携<br><課題><br>行事の前等は勤務時間が長くなる傾向にある | 【職員のチーム力の向上とさらなる業務改善】<br>①各主任を中心とした部の計画的な運営<br>②業務の可視化による在校時間の短縮<br>③終わりを意識したタイムマネジメント<br>④ICTの更なる活用<br>⑤研修や会議の効率化 | ○ | | | よく関わっている地域住民とそうでない人の差が大きいので、行事への参加をもっと呼びかけたら良いと思う。<br>今年度児童の下校の時刻を15時にして色々改善したことが良い方向に進んでいると思う。<br>先生方の勤務時間が守られているので良い。 |

本年度の重点目標については◎印で示す。

PA-SENNTO

【l:学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。